栽培カレンダー

「家の光」2010年10月号「家庭園芸」

●種まき　収穫

栽培のポイントとして、ゴボウは栽培期間が長いので、前後作をよく考えて作付けすることが大切です。排水のよい、耕土の深い畑が最適です。種子は、芽が出にくいため、あらかじめ水に浸しておきましょう。また、光が好きなので、種を蒔くときは土を浅めにすると芽が出やすいですよ。

種まき前の準備

JA愛知西オリジナルキャラクター「レキ」

ゴボウ

食物繊維が豊富で香りがよい

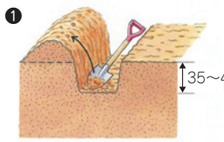
食物繊維を豊富に含み、腸内環境を整え、善玉菌を増やす働きが注目されています。かつては、ゴボウを食べるのは日本や台湾だけでしたが、近年は中国や西欧でも人気が上昇し、消費が拡大してきました。

においを消す働きがあるため、肉や魚といっしょに調理されることが多いですが、近ごろは若ゴボウをサラダに用いるなど、用途が広がってきました。

1 畑の準備

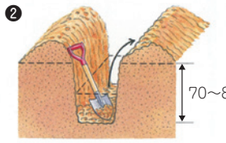
根が素直に伸び、掘りやすいゴボウを作るには、耕土を深くしておくことがたいせつ

❶



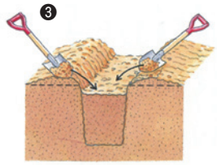
1層めを掘り、片側へ土を盛り上げる

❷



次に2層めを掘り、反対側に土を盛り上げる

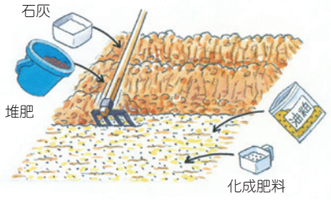
❸



盛り上げた土を交互に埋め戻す。できるだけ早めに作業を終え、降雨を待ち、土を落ち着かせる

2 元肥入れ

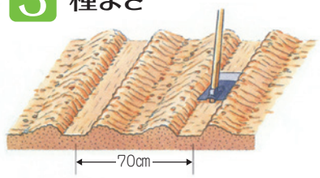
深耕した場合はやせた土が上層に出て肥料不足になることがあるので、石灰と良質な完熟堆肥を1か月前に多めに施しておくことがたいせつ



元肥は、種をまく1～2週間前にまき、軽く耕しよくならしておく

〈1㎡当たり〉
油粕　大さじ3～5杯
化成肥料　大さじ3杯

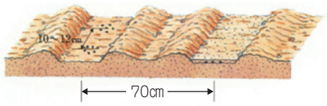
3 種まき



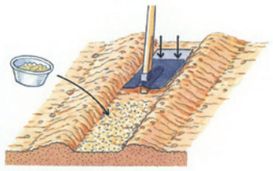
鍬をていねいに前後に動かし、溝底が均平な鍬幅のまき溝をつくる

畑が乾いたら、まく前にまき溝全面に灌水しておく

1か所に6～7粒まく



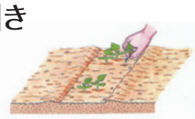
種は好光性なので、覆土が厚すぎると発芽しにくい。5㎜程度の覆土とする



覆土した後、鍬の背で強めに押さえ、種を土に密着させる。乾くようなら、その上に籾殻燻炭、細かく砕いた完熟堆肥などを、薄くまいておくとよい

4 間引き

第1回
本葉1枚のころ
2本立てにする

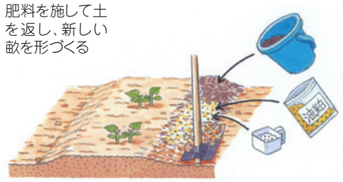


第2回
本葉3枚のころ
1本立てにする

5 追肥

〈畝の長さ1m当たり〉
完熟堆肥　5～6握り
油粕　大さじ3杯
化成肥料　大さじ2杯

第1回
第1回の間引きが終わった後、肥料を施して土を返し、新しい畝を形づくる



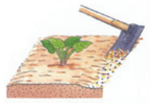
第2回
第2回の間引き後

〈畝の長さ1m当たり〉
油粕　大さじ3杯
化成肥料　大さじ3杯

1回めとは反対側にまき、軽く耕す

➡

第3回
本葉5枚のころ
施肥量は2回めと同じ



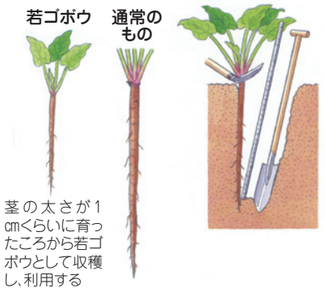
2回めとは反対側にまき、軽く耕す

6 収穫

早くから若ゴボウとして収穫できる。春まきの場合、冬を越してからも逐次掘り取り、長い間収穫を楽しむ

葉を切り取り、細長いショベル、鉄棒などを用いて、できるだけ先端部まで掘り取る

若ゴボウ　通常のもの



茎の太さが1㎝くらいに育ったころから若ゴボウとして収穫し、利用する

○収穫した野菜を産直広場で販売してみませんか？只今、産直会員募集中！お申し込みは、最寄りの産直広場へ！

今月の運勢　蟹座（6/22～7/22生まれ）好奇心を刺激されることがあったら、とことん調べてみるとグッド。新しい趣味や習い事を始めるのも刺激大

旅行事業で地域農業をPR！

当JAは、地元の農業を紹介するツアーを新企画として今年から取組み、地元農産物の消費拡大や農業者の所得増大を目指しております。5月に開催いたしました「『食と農』満喫ツアー」では、産直広場一色下方店のバックヤードや開店前の様子をご覧いただき、産直会員から商品の魅力を直接聞いたり、稲沢市内で農業を営む生産者の栽培ほ場を巡って、生産者の方達から直接話を聞いたりして、地元農業に触れていただきました。参加者からは、「実際に農業の現場を見ることができた」と大変好評でした。また、ご協力いただきました生産者の皆様からも、「栽培ほ場で農産物の魅力を消費者に直接伝えることができ、新鮮な取組みだった」と大変お喜びいただきました。

ツアーの第2弾は、夏休み企画として子ども達が楽しく地域農業を学べるコースを企画し、8月21日にお出かけいただきました。これからも、地域農業のPRから農業者の所得向上を図ってまいります。

広報誌4月号特集で募集！

※お申し込みは終了しています。

ツアーの内容！

産直広場一色下方店内を見学

店長の案内で、バックヤードやオープン前の店内の様子をツアー参加者にご覧いただいたほか、鉢花を出品された産直会員様からも産直商品や産直広場の魅力をしっかりとPRいただきました。

稲沢市内の農家を見学

ツバキの生産者様（写真左）と水耕トマトの生産者様（写真右）にご協力いただき、実際に栽培している様子や農業の魅力などを、たっぷりとご紹介いただきました。

2018年7月27日（金）日本農業新聞全国面に掲載！

JA愛知西

ツアーで農業知ろう

【愛知】JA愛知西は今年度、地元農業を紹介するツアーを始めた。産直施設のPRや、参加者に「農業応援団」になってもらうことなどを狙っている。「『食と農』満喫ツアー」と題したツアーを5月に実施したのに続き、8月は、夏休みの自由研究のテーマに悩む小学生やその保護者らを対象に、農産物の物流を学べるツアーを行う。ツアーを企画したのは、稲沢市に4月に移転オープンしたJA産直広場一色下方店の所在地を地元農産物をPRしようとしたのがきっかけ。

5月の「『食と農』満喫ツアー」は同店を出発点に、稲沢市内で農業を営む生産者の圃場（ほじょう）などを巡った。同市と一宮市に住む36人が参加し、同店のバックヤードや産直会員が商品を出品する様子、ツバキや水耕トマトの圃場などを見学した。

ツアーに協力した平和町園芸組合のトマト部会に所属する梶浦政幸さん（51）は「圃場で消費者に直接トマトの魅力を伝えることができたのは新鮮だった」と話した。参加した稲沢市の山内稔さん（64）は「自分も3年後にブルーベリーの観光農園を開く計画を立っており、農業を紹介する様子を見てみたかった」と話した。

夏休みの小学生向けのツアーは8月21日に実施し、農産物の物流を学ぶ。一宮市で生産するナスの圃場や、JA萩原支店の出荷場、岐阜県にある岐阜中央青果などを見学して、JA産直広場一色下方店で買い物を楽しんでもらう。

JAバンク協調型事業の教育活動助成事業を活用して1組2000円で、20組40人を8月10日まで募集している。ツアーを企画したJA生活部旅行センターの小林雅仁所長は「農業者の所得向上や地元農業のPRにつなげたい」と話した。

5月のツアーで参加者に水耕トマトの栽培方法などを紹介する梶浦さん㊨（愛知県稲沢市で）

今回のツアーでは、同ツアーを参考にして自らの農園を観光資源に活用したいと考える方も参加されていました。当JAでは、農業と観光を繋げたいとお考えの方がいらっしゃると思います。

そのような皆様の声をお聞かせいただき魅力的なツアーを企画していくことが、地域農業の活性化に繋がり農業者の所得増大に貢献できる取組みになると考えております。ツアーにご興味がある方は、**生活部旅行センター（電話：0586-71-6841）**までご相談ください。

JA愛知西オリジナルキャラクター「ケン」

今月の運勢　双子座（5/21～6/21生まれ）珍しく感情的になりやすいかも。人の行動に口出しすると、トラブルを招くので、ご用心。笑顔を心掛けて